

令和6年度第1回七尾市部活動のあり方検討委員会 会議録

1 日 時 令和7年3月27日（木）16時00分～17時40分

2 場 所 災害対策本部室

3 出席者 八崎 和美 委員長（七尾市教育委員会）
大森 重宜 副委員長（金沢星稜大学人間科学部教授）
國下 正英 委員（（公財）七尾市スポーツ協会）
柘植 英一 委員 代理：内田一哉（田鶴浜スポーツクラブ）
前田 忠久 委員（なかじまスポーツクラブ）
原田 浩喜 委員（能登島少年少女スポーツクラブ育成会）
山原 真吾 委員（七尾市中学校体育連盟）
坪野 昭 委員 代理：大橋武史（七尾市中学校長会）

奥村 義彦 教育部長
善端 直 教育次長
観音 和繁 教育総務課長
奥原 真弥 学校教育課長
見里 博之 スポーツ・文化課課長
小原 真紀子 教育総務課課長補佐
栗山 史昌 スポーツ・文化課専門員
川向 藤和 教育総務課主幹

オブザーバー（岡本 泰 （七尾市立七尾東部中学校長））
（湊口 登志子（七尾市立中島中学校長））
（白田 剛 （七尾市スポーツ協会））
（長田 次夫（田鶴浜スポーツクラブ））
（黒崎 直人（七尾市行政アドバイザー））

4 議事録

<開会>

（八崎教育長）

本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。まず最初に部活動のあり方検討委員会を今日まで開催できなかったことにお詫び申し上げます。

少しでも前に進むために、教育委員会で考えてるゴールのイメージと短期のやるべきロードマップイメージを理解いただいて、そこでたくさん意見をいただきたいと思います。

令和7年度は、2～3回行いたいと思っており、いただいた意見は次回の会議でお答えするようにしていきたいと思っており、少しずつ前に進みたいと思っていますのでご忌憚のない意見をお願いします。

<委員の出席>

全員参加（代理含む）

<議事>

（八崎委員長）

それでは議事に入る。「部活動の地域移行における現状と課題について」及び「部活動の地域移行の取組みと方針について」一括して事務局から説明をお願いします。

【協議事項】

《部活動の地域移行における現状と課題について》（観音教育総務課長）説明
（八崎委員長） ご意見ご質問はありませんか。

<内田委員>

昨年度聞いたが、移行するにあたり指導者に報酬は出すというお話があったかと思うが、昨年度、団体が増え今年は増えていないように見受けられる。なぜこのような話を聞くかということ、田鶴浜スポーツクラブで教室の指導者に対しわずかだが謝金を出している。

今後、中学生のクラブに行政が謝金を出すということになるとジュニアとの格差が出る。今後どうなるのか考えを聞きたい。

<前田委員>

地域クラブに移行した場合、各競技が中体連の大会にどういう体制になったら出場できるのか。生徒が楽しむためには、大会に参加して勝ちたいという意欲を持たないとダメで、何年から大会に出場できるのかわからないと指導者も張り合いがないのではないかと。

<観音教育総務課長>

まず指導者の推移ではありますが、現在把握している中では現状維持で増えておりません。クラブ活動のイメージ図にもあるとおり、あくまでも小学生対象のクラブと同等のものと考えていて、保護者への応分の負担は、小学校のスポーツ教室と全く一緒なものと考えております。中学生版をイメージしておりますので、行政からの謝金等は基本的には考えてない。

中体連の方ですが、その種目によって、クラブの参加基準がバラバラで参加しやすいのもあれば、学校単位でないと参加できないものもあります。個別に言うとバスケットの方になるのですが、バスケットは最近日本バスケットボール協会がクラブと部活動について基準を提示しました。結果からいくと。クラブはクラブ、部活動は部活動で、クラブが部活動の大会に参加することは基本的に認めませんというのを日本バスケットボール協会が示しているものになります。

中にはイレギュラーがありまして、単独校では不可能な場合、複数校の合同チームによって、部活動の大会に参加できるという規定もあり、部活動の大会としては通常それに対応していくものになっていくのではないかと思います。

クラブはバスケットに関しては冬場にクラブ大会の全国大会がありますので、ク

ラブとしてはそこを目指してください。というのは日本バスケットボール協会の規定になっている。基本的には3年間部活動にするのか、クラブの方にするのか決めていただいて3年間異動は認めないというのが、バスケットボール協会の指針であります。

ただし、中学校3年生の夏以降については、部活動の部員がクラブのところに1回だけ移動してもいいよ。というものが協会の指針にありましてバスケットについてはそういう流れになっていきます。

<前田委員>

どこかの学校の名前を借りるのかどうか分かりませんが、2校で出場することは出来るか。

<観音教育総務課長>

はい。

<山原委員>

資料の訂正というか、今年度の現状ということで、七尾中学校では生徒数の減少に伴う部活動の統廃合が進んでいます。資料の中の今年度中に活動停止したのがソフトボール部は3年生が卒業したので夏から活動を停止し、募集停止としています。科学部も代替の活動もあるということで科学部は今年度途中で活動を停止しました。水泳部においては現在新3年生が3名だけということになりますので、今年度募集停止をし、夏で活動停止ということになります。水泳とソフトボールが令和11年度に必ずないということで3つを確認したという現状です。

<内田委員>

田鶴浜スポーツクラブは、もう七尾中学校が入っているので、実は部活動という形では体育館の利用は基本的にないですけども、今ちょうどこの時期に使用の申込み予定を受け、1年間の時間割を入れているわけですが、スポーツクラブなので小学生から高齢者までいます。今スポーツクラブに入っている中学生の会員数は110人で男子が64人、女子が46人で5団体います。

ただ、この中で田鶴浜地区の子供は110中19人しかいない。学校別にみると七尾中は1番多いが、能登香島、中島、志賀中、中能登中、輪島中と結構広い範囲から来ております。今日も1人テニスの方が練習にきていたが、その子は中能登中へ行くということです。

そして、そのうち指導者は14で一般が12で、教員が2。例えばクラブの七尾ダックス女子ですけども、指導者生徒の一覧では七尾中が多いですが、1番広い範囲から生徒が来ている。これが今の状況です。

これに男子バスケット、ソフトテニス、陸上もあります。これに加え、今は仮設小学校の件で体育館は狭くもなっているのですが、みんな分け合っている状況です。

これが今の状況で自分の感覚としては、もう田鶴浜地区はクラブ化してきていると、ジュニアで言うと、もうサッカーは元々いろんなところから小学校にあるわけではないのでクラブになっている状態にあります。

ただ、中学生はまだはっきり見えてきていないが、例えばジュニアで見ると先ほ

と言ったその指導者の指導してくださる時間となると、どうしても今代替わりをして若い人もやっていく、どうしても遅くなっていく中で、子供たちもちょっと空いた時間というのはどうしてあげればいいのかというのを思いますし、電話、例えば申込みがある七尾ダックス男子であれば、七尾中学校と中島体育館を使うのではないかなと思います。18時から20時に、七尾ダックス女子の場合は19時から21時という時間にどうしてもなってしまうのですが、その間の時間とか確かに遅い時間に一生懸命やっている姿を見ると応援したくなるのですが、中学生で例えば先ほど時間の説明もありましたけど、21時に終わってもそんな時間に帰って食事をして、風呂に入ったら勉強する時間があるのかな、休む時間があるのかな、ということとは常に心配しています。

地震の影響で道の悪いときは30分早く切り上げてもらうように指導者の皆さんにはお願いをしてやっている。野球は、今では中島と一緒にしないとチームができないですが、嬉しい話ですけど、今日、星稜中学校が全国優勝していましたが、そこに田鶴浜の子が何人かいます。

やはり、家族が良川駅まで送ったり、場合によっては金沢まで送ったりなど協力が絶対必要なのですが、子供たちはやりたいスポーツを前田委員も言われましたけど、勝ちたい強いところを目指していくというのを見てみると、指導者は元々競技者なので楽しいスポーツを指導するだけ、結構これ難しいなと思うことと、どうしてもやはり勝ちにこだわっていくっていうところはあるかなと思いますし、そこに来ている子供たちも、モチベーションで勝ちたいという思いのところに強く行くのが今の流れであり、七尾もそういうようなスポーツの特色を出せたらいいなと思います。

今田鶴浜スポーツクラブは、こういう形で体育館が使用されているという状況だけ説明しておかないと思い、話をさせていただきました。

<前田委員>

もう1つお願いします。指導者の問題については、どこかに指導してくれる方が多分いると思うのですが、移動手段ですね。移動手段をどこまで行政として面倒を見るのか、それとも今までどおり保護者に任せるのか。

それについて、ある指導者と話をしたが問題であり、例えば私中島ですけども会社が終わった場合に送迎するのは保護者、ボランティアか。ボランティアできる人はいないので、やはり最終的には保護者に負担してもらわないと好きなスポーツができない。でもそこで助けを求めるとしたら私は行政しかいないと思うので、最初は難しいかもしれないけど、どうやって確保し、将来的に可能かどうか、それを解決しないと無理ではないか。

<八崎委員長>

保護者にかなり負担になる部分もあるので、行政として何か出来ないかっていうことは今検討しているところです。

私たちも次へ進む時に引っ掛かっているところで、ご意見いただきたいところでもあるのです。でも、本当に言われる通りここはもう難しいところです。1番ここです。いつも止まる。例えばバスの準備とか、ぐるっとセブンとかいろんなことも考えてみて、その場所によっても違ってくると思います。

最初、中島でやるのか七尾でやるのか全部でやるのか個別対応になるのか、全部

一律に保証するのか、出来ませんになるのか、ちょっとまだ検討させてください。

というところで、もう本当に１番大きな問題だと前の会議から、そこを何か考えないといけないと話をしている。

＜内田委員＞

１番異論の少ないことを言えば、例えばあの山原委員にお聞きしたいのですが、現在、田鶴浜体育館は本当にコマで入れている。時間の関係でここは同じ競技だから、ここは知っている人同士だから話し合って時間調整してね。という枠を組んでいます。

子供の移動が１番少ないことを考えたら、そこにいる子供の学校の体育館を利用するのが１番移動が少ないが、指導者の関係で、どうしても時間が空いてしまうのも課題だと思うが、中学校の体育館で、例えば小学校体育館みたいに１回学校から切れた状態の中で使える枠っていうのは結構あるのかどうか、それとも一般開放で、もう埋まっているのか。

＜山原委員＞

現状では、部活動が終わってからの時間で、体育館については１９時から２時間以内で貸出を行っています。グラウンド、野球場、ソフトボール場、テニスコート、体育館サブアリーナに対して１ヶ月１００団体が入っている状況で、もう満タンです。

＜内田委員＞

もし少ないとすれば、そこかなという気がしました。でもやはり一般の方のスポーツも当然大事ですから致し方ない。

＜山原委員＞

地域クラブになった時に、どちらを優先するかという話にはなってくるのだと思う。

＜八崎委員長＞

これは、これからの検討材料っていうことで何か良い案がありましたら、また次の時までにもお願いします。

＜部活動の地域移行における取組と方針について＞（川向教育総務課主幹）説明
（八崎委員長） ご意見ご質問はありませんか。

＜原田委員＞

今後の方針のところで、部活動の廃止は令和１３年度を目途に全中学校での全面的な部活動廃止という見通しですが、この部活動廃止に絡んで中体連の組織が、地域クラブチームの中体連大会参加に制限を受けるとするのは、現状の中で中体連の組織自体がこの部活動の地域移行の流れの中で存在していくのか。

また、全国大会も中体連運営であるが、一方で各種目の協会主催の独自大会もあり、住み分けでいくのか、ゆくゆくは中学校部活動を地域スポーツクラブへ有効に

絡めて中体連の組織自体がなくなり、部活動はもう地域スポーツになるのか。そういう見通しの中での部活動廃止という動きなのか、今現状では、その大会参加が制限を受けている中での見通しを知っておきたい。

<観音教育総務課長>

この令和13年度というのは、あくまでも国が示す改革実行期間で令和13年度が最終年度であるため、七尾市はここを最終目標として目指すものなので、多少前後はすると思います。

その中に、国が示す中体連との関連性、中体連の大会との関連性、もしくはその各スポーツ競技団体が主催する全国大会の関係性というものは、これから模索しながら、調整していくと思います。

ただ、あくまでも国が示す改革実行期間の最終年度に合わせて、七尾市も設定したものであり、いつまでがゴールなのか最終設定をしないと、その目標に向かって皆さんが動けないですし、部活はずっと出来るものとして頭の中では出てくるので、あくまでもここをゴールとしての目標設定をさせていただきました。

<原田委員>

中体連について、中学校の現場サイドはどういうふうに捉えているのですかね。

<山原委員>

県としても、全国の中体連からいろんな大会をなくしていくとか縮小方向にあるという構想等は見えていますが、具体的に何年を目途に中体連が、例えば解散していくのかとか、全ての大会が中体連ではなくなっていくのかという話を私は把握していません。

<前田委員>

令和13年度に部活動がなくなるということは、中体連もなくなるのではないかなという捉え方をするわけで、そうではないと言って、またずるずるいく。

なくなって次こうやりますというものが見えてこない、指導者に聞いても、まったく見えないと言っている人もいます。

<原田委員>

以前、学校現場にいたので、地域スポーツに移行というものも十分理解できるし、地域のスポーツクラブとして協力していき、七尾市の子供たちの健全育成には全市民が課題意識を持って取組まないと思っているのですが、学校サイドとしてその部活動がなかなかもう運営しにくい、教員の負担も考え、地域スポーツに移行と考えているのであれば、学校サイドがまずしっかり掴んでおかないといけないと思います。

<山原委員>

中体連がどうのこうのというところは置いて、他の自治体の中で3年後を目途に部活動は廃止しますと宣言しているところも出てきているということは、もう中体連があるないに関わらず、それは別問題だということです。民間の大会があるし、クラブとして中体連の大会に参加できるということなので、中体連がなくなら

ないと部活動がなくならないってことが全く別の話ではないかなと自分は理解をしている。

<原田委員>

中体連の大会参加に制限を受ける中で、部活動がなくなって地域クラブチームが中体連の大会に地域チームが混ぜてくださいという形で残るということですか。

<大森委員>

長期的にはそれはなくなる。それが何十年後か、もうすぐだと思います。場所によってはもう完全に移行していて、そこが衰退しているかというところも隆昌化しています。

<原田委員>

このスポーツは中体連の大会に参加できるけど、このスポーツは制限を受けるみたいに見通しが持てないのでは、現状では制限があり、課題だと思う。日々のクラブ活動というのは、成果を試せる大会があって、どこまで見通しを持てるかが大事だと思う。

<内田委員>

移動手段と同時に大事な課題だと思います。国の方針が出て、それに合わせて趣旨を明確にしているが、国の方針はいつまでというのは、今はない状態。

それで、多分ゴールのない中で、その地域が色々考えて行動し、完全に移行する時を決めているというところで地域によって差があると思うのですが、話で聞いただけで確認はしてないが、大森先生も言われましたが、隣の中能登町は来年度から完全にクラブ化になるのではないかという話を聞いたが、どうなのでしょう。

<大森委員>

中能登町は 1 中学校で、そのまま名前を変えればいい。上の組織は別の大会が開けるということなのですが、それだけのことだと思います。やはり、その 1 つがあるということが、この短期間の中で、中島モデルと同じで中能登町はちょうどいい大きさだと思います。

フィットネスクラブが地域でもよく進出していますが、人口減少しているところで人が集まってくるわけで、しぼんでいるわけではないですね。見方変えるといろんなことが起こっていることがありますから、中学生にフォーカスしていくと人が少なくなるというだけではない。あの考え方を持った方がいいですよ。

<内田委員>

ここの会議では、例えば令和 13 年度という話になりますが、中学生でいうと今いる子たちは、当然中学生ではなくなっている年で、この七尾の今後の方針みたいなのがどこかで小学校の保護者にうまく伝わっていくようなことも是非してほしい。

アンケートを取っているから分かっているとは思いますが、そういう方向で親も少し考えていただけると、スムーズになるのかという気がします。

<山原委員>

中学校の立場でお話をすると、中学校教員の献身的な努力で支えられている上、非常に負担に感じている状況にあるので、令和13年度は遠すぎるのではないかと私は感じています。

ましてや、休日の部分から段階的に移行した時に、中学校教員の部活動は何を目的とするのか、基礎練習だけをやって美味しいところは地域に持って行ってもらって、私たちは下支えだけですか。

そうなった時に教員は部活動に対するモチベーションを持ってやれるのか、今と同じような状況のまま子供、教員がモチベーションを持って活動を続けるということは、部活動の休日のみの移行では私は難しいと思っています。

ですので、完全移行というのを数年後という形で宣言をし、そこに向かって動いていくということをしていかなければ、部活動が完全に衰退しきってから地域移行になってしまうのではないかと危惧しています。

<前田委員>

いくつかの問題を抱えているクラブもあると思うのですが、現場の指導者を呼んでお話しする機会はないでしょうか。今、現場の指導者たちの悩み等を聞く機会はないと思います。利用者を一堂に集めてどこが問題か議論すればいいのでないか。そういうのをやってみるのも必要ではないか。

顧問が大変なのは経験して分かっているが、学校以外の指導者のそういう集まりは今までやっていないのでやったらどうか。

<内田委員>

一昨年、一度田鶴浜地区のクラブの指導者を集めて観音課長が説明した機会がありましたよね。

<観音教育総務課長>

田鶴浜、中島、能登島、全てやっています。

<内田委員>

なかなか意見が出しやすい場所ではなかったですが、説明を受けるという会議だったので意見が出せる会合ではなかったもので、そういった機会を作っていただくと助かります。

<八崎委員長>

まとめるとまず ①移動手段に関わること、②活動できる試合の保証は今どうなっているのか、③部活をそのままクラブにする中能登のような方式が七尾市には合わないか、④保護者に広報していく必要性、⑤早期完全移行をゴールにして休日移行を考えていくべきである、⑥現場の声を聞くチャンスを持ち、それを吸い上げる必要があるのではないかと。という6点のご意見いただきました。

これを踏み込んで次回提案させていただきたいと思います。と同時に、この地域クラブの皆さんに、どれだけ、いつ、どこで、だれが確実に地域移行におけるクラブを持っていただけるのかという摂衝も教育委員会で続けていきたいと思っています。

《その他》

地域クラブの方から、この会議を傍聴したい旨の申し出がありました。

規約では公開になっておりますので、他のクラブで興味ある方がいましたら公開する形となります。申し出の方は、野球の受け皿になりたいということで USIC の小杉さんが話を次回は聞きたいとのことでした。

四中学校の野球の顧問の先生たちとも連携を取りながら新しくクラブを作っていたいて、今後どの方向に向かっていくのか聞きたいということでした。他にも、もしそういう方がいましたら、公開しておりますので、よろしくお願いします。

《閉会》

(大森副委員長)

一言だけ言わせていただきます。この国のスポーツは衰退するだろうという意見が大半を占めている。なぜならこの状況です。

もちろん少子化ってこともあるかもしれませんが。全員部活動的な風潮が消えるということについての懸念ということがあると思います。なぜならば、この制度は日本にしかない制度だからです。

例えば、昔は、相撲は男の子なら相撲の土俵に上がったことない男の子はいなかったはずですが。今は土俵に登ったことある男の子はどれだけいるのでしょうか。しかし、大相撲は隆昌化しています。

つまり、サーカスのような見せ物になったということになります。野球が今そうです。先日、読売ジャイアンツ ジュニアコーチの片岡さんと話をしたのですが、なぜジャイアンツがこんなものやっているのかと聞くと、こういうことをしないと野球が衰退すると言われていました。プロ野球も相撲と同じような道をたどるのではないかと思います。

実は、私たちはこの部活のことで見逃しちゃいけないのは、スポーツを通じた教育を我が国は放棄しなければいけないということなのです。

つまり、エンターテインメントになるということになりますので、これにあの重きをおいてしまう部活がなくなるということ、移行するという時に指導者の方々はできたら学校の先生にもう一度立ち返っていただいて、スポーツを通じた教育的な価値もちろん、これは元を辿れば嫌な話ですが、スポーツは白人男性のキリスト教義の民思想であります。

それから、世界中にスポーツが広がったのはイギリスの植民地政策で、現地の人間をなびかせるためにやりました。苦しい人たちがその時にサッカーに賭けをしました。賭けも対象です。貧しい自分が世に出るためにサッカー、ボクシングなどのスポーツをやる。そのような土壌がありました。相撲もそういう状況があったと思います。しかし、私たちはオリンピックを通じて、スポーツの価値を変えてきたはずなんです。

それで頑張れる、それから博愛主義、それからスポーツマンシップなどというような言葉が出てきたように、いろんなことが世界に広がってきたはずなのですが、これを捨てないようにしなきゃいけないという俯瞰した目からすると、ここ大事にしたいと思うんですね。これを忘れてしまうと、多分面白くないことになってしまうのではないのでしょうか。

スポーツを取り巻く環境は激変しておりますが、うまく使うならば少子化対策、

それからお金を回すということについても、動いてくれるんじゃないかなという風に思います。そこを信じて、これをうまくやらないとダメなので山原委員がおっしゃったように早くやった方がいいと思います。

こちらからの提言として、分析する方法を知らなければいけません。状況分析が出来なければいけません。そこまで来ていますが、もしかしたら、もう横にいるのかもしれないので、1日も早くやっていただきたいと思います。

このプランのモデルになった地域クラブというのはドイツのゴールデンプランというもので、これは子供たちのためではなく、シニアのために行いました。

年を取って体が動かなくなって、夫婦でテニスを見に行って、サッカーを見に行って、そこでワインを飲みながら応援するという人は、そのクラブチームのメンバーなんです。

そういう社会を作るということが元々の目標でしたから、子供たちのスポーツというふうに考えない方がいいような気がいたします。その方が解決しやすいような気がいたします。そうすると指導者も生まれます。

七尾も頑張らなければ大変なことになるという風に思います。長くなりすみません。本日はご苦労様でした。

(川向教育総務課主幹)

ありがとうございました。以上で、第1回七尾市部活動のあり方検討委員会を終了いたします。